

# Letters From Muroran IT No.58



## CONTENTS

- 01 ..... 室蘭工業大学  
工学部から理工学部へ
- 02 ..... 学生の活動紹介
- 03 ..... 研究紹介
- 04 ..... 室蘭工大 OB・OG 訪問
- 05-06 ..... TOPICS

2019年4月、工学部から理工学部へ /

# 室蘭工業大学に **理工学部** が誕生します

室蘭工業大学理工学部 (H31設置) Faculty of Science and Engineering

## 設置の趣旨・必要性

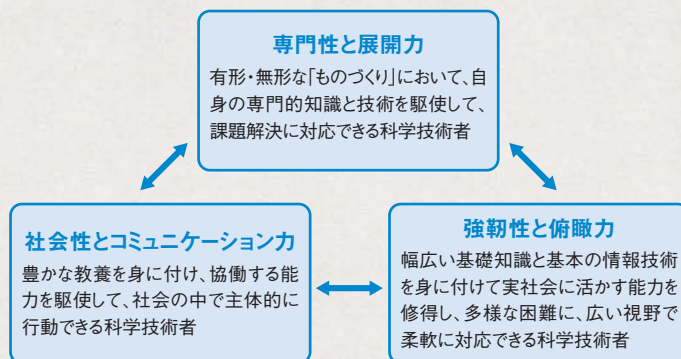
### 北海道の課題と世界共通の課題に挑戦する人材を育成する教育・研究組織が必要

激変する社会と産業界で活躍できる人材が求められている。さらに、北海道の地域資源を理工学的な観点から活用して、北海道の新しい産業をつくり出せる人材が求められている。その人材には、グローバルな競争とICT・AIの浸透による技術革命に対応できるように、**全ての専門分野で情報・データサイエンスの知識と技術**が不可欠である。室蘭工業大学は、北海道の自然を活かす知識・技術および情報技術の力を備えた北海道そして世界の産業を担う人材を育成するため、工学部から理工学部へ改組を行う。

## 養成する人材像

### 北海道の資源を使い、もの・価値づくりができる科学技術者

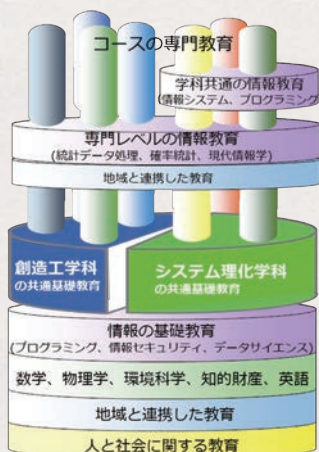
- 科学技術者の「**専門性と展開力**」「**強靱性と俯瞰力**」「**社会性とコミュニケーション力**」を学ぶ教育・研究を通して、**変わり続ける産業界で活躍する力**を身につけた人材を養成します。
- 創造工学科では、北海道の資源・資産の特性を理解し、それを社会に活用する力**〔地域産業を発展させる力〕**を特に育成します。
- システム理化学科では、北海道の資源・資産の本質を解明し、その本質を体系づける力**〔地域産業の芽を見つけ考える力〕**を特に育成します。



## 理工学部教育の特長

### 1 社会変化に対応できる力を身につける理工学基礎教育

創造工学科では機械工学と電気工学及び計測工学を、システム理化学科では物質科学と化学と生物学を、それぞれ専門基礎レベルで全学生が学び、社会と産業の変化に対応できる力を身につけます。地域と連携した教育をととして、グローバルな課題解決能力を学びます。



### 2 全学生への専門的な情報教育

全ての学生が専門分野のデータを自らプログラミングして処理・解析できるように、情報の基礎(プログラミング、情報セキュリティ、データサイエンス)から専門レベル(統計データ処理、確率統計、現代情報学)までを必修科目として学びます。

### 3 分野横断的な学科構成による俯瞰力育成

厳選した基盤専門分野で構成したコース編成による教育で、分野横断的な課題を理解して、広い視野で課題の本質を捉える能力を身につけます。

## 学科構成

### 創造工学科 (昼間コース 325名 夜間主コース40名)

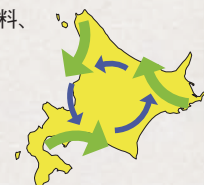
オリジナリティを究める「ものづくり」の工学を学ぶ。

- 建築土木工学コース 建築、建設、土木、環境保全、防災分野
- 機械ロボット工学コース 機械、自動車、ロボット、インフラ産業、医療機器
- 航空宇宙工学コース 航空機、ロケット、衛星
- 電気電子工学コース 再生可能エネルギー、電力、通信、デバイス、ロボット
- 夜間主コース機械系コース 機械、ロボット、航空宇宙
- 夜間主コース電気系コース 電気、通信、デバイス

### システム理化学科 (昼間コース235名)

情報の力で自然を社会に生かす「価値づくり」の理工学を学ぶ。

- 物理物質システムコース 物性、金属、環境調和材料、デバイス
- 化学生物システムコース 化学製品、バイオ材料、食品、薬品、遺伝子
- 数理情報システムコース AI、情報ネットワーク、ソフトウェア、知能



技術革新と持続性の実現

# SARD Hybrid Rocket Project

## 実施報告

機械航空創造系学科 3年 川合 柁平

私たちSARD Hybrid Rocket Projectは宇宙を目指して、より高高度のロケット打ち上げ技術の獲得に向けて活動を行っているプロジェクトです。私たちは昨年度から今年度にかけてアビオニクスによる各種データ計測、回収機構の完全動作を目標として掲げ、活動してきました。

上記の目標を達成させるにあたり打ち上げ実験を計画し、それに向けた機体の調整と毎週日曜日に打ち上げ実験のリハーサルを行いました。リハーサル後のミーティングではリハーサルの改善点や当日の動きについて確認しました。その結果7月7日に赤平市にある植松電機敷地内にて行われた打ち上げ実験では、約2時間のシーケ

ンス遅れやアビオニクスの不調はあったものの、回収機構の完全な動作により機体はほぼ無傷の状

態で回収することができました。SARDとしての回収機構での機体回収は約3年ぶりであり、各種データの計測に機体が寄せられましたが、アビオニクスの正常な動作は確認されたものの正確なデータの回収までには至りませんでした。今回の実験は完全な成功とは言えず、経験者に対し未経験者の数が少なかったのですが、安全に十分配慮した実験を行うことができました。今後は正確なデータの回収率の向上を課題として取り組んでいきます。

他の活動内容としましては、毎年秋田県能代市で行われる第14回能代宇宙イベントや全国の学生ロケット団体との技術交流を目的としたロケット交流会、UNISECワークショップなどに参加しました。

これまでの活動の経験を生かし2019年度は昨年から続いてきた自作エンジンの開発及び燃焼実験や能代宇宙イベントへのハイブリッドロケットでの参加を目指して活動を続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、株式会社植松電機やSARD Hybrid Rocket Project OBの皆さんをはじめとする私たちに関った全ての方々の本プロジェクトへのご協力、感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

# 研究紹介

## 分子フォトンクスの学理と物質開発

くらし環境系領域

飯森 俊文 准教授



私たちの研究室では、分子に関する理学的な基礎研究を基盤として、分子材料をフォトンクスへ応用することで光機能を実現することを目指しています。分子は光を吸収したり、光を放出（発光）したりする性質をもっています。分子が吸収する光や発光を精密に測定する学問を分光学といいます。分光の実験を通して、分子の構造や電子状態、および反応過程を詳しく解析することができます。私の研究キャリアは、この分子分光学とよばれる理学的な研究分野が原点になっています。また分光の実験と理論は、光と物質のあいだの相互作用と表裏一体であることから、工学的な視点で光の応用を研究するフォトンクス分野にもつながります。フォトンクスの研究対象となる物質は、無機物の半導体からナノ材料、生体分子とさわめて広範囲ですが、分子から作る材料は分子の多様性を生かすことで研究者の発想にもとづくデザインが可能であること、さらにはフレキシブル・軽量・低コストなどの特徴も持っています。本稿では、分子材料の基礎研究を通して、新しい「機能の発見」と「価値の創造」につながった例をご紹介します。

1つ目の例として、発光する分子に関する研究を紹介します。図1は、テトラシアノキノジメタンという分子です。この分子は1960年代に合成された分子で、電気を良く流す有機結晶や高温超伝導体を合成するために研究されてきました。私たちはこの分子を利用して、電子伝導機能と発光機能をあわせもつような多重機能材料の開発を目指して研究を行っています。最近、この分子の蛍光は溶媒の極性にきわめて敏感であることがわかり、溶媒の極性を調べるセンサーとしての機能の発見につながりました [1]。

次に分子でつくった磁性体の研究について紹介します。小学校の理科の実験でもおなじみの「磁石」は、硬い無機材料でできているものが一般的です。私たちはそのような固定概念を破る大きな磁性を持つ液体材料を合成し、その磁気光学効果について研究を行っています [2]。分子材料、特に液体は磁性体としてあまり注目されていないのですが、私たちは新しい磁気光学材料としての潜在的な可能性を見出しています [3]。

最後に、地域資源である農産物をフォトンクスに活用した研究について紹介します。北海道は、デンプンの原料となるジャガイモやトウモロコシの日本における一大生産拠点となっています。私たちはデンプンを素材として、発光するナノ粒子を簡易な化学的処理で合成する手法を研究し

ており、低毒性で低コストな生体蛍光プローブの開発を目指しています。デンプンやジャガイモなどは食料として重要であることは言うまでもありませんが、地域資源に「発光機能」という新しい付加価値を創造することにつながることを研究を行っています。

当研究室は現在、修士2年4名、修士1年4名、学部4年6名+私の総勢15名の大所帯となりました。得られた研究成果は国際学術論文誌や学会で発表し、2017年度には2名の学生が学会発表で優秀講演賞を頂いており、活気あふれる学生諸氏（図2）とともに日々研究に励んでいます。

### 参考文献

- [1] H. Tamaya, H. Nakano, T. Iimori, J. Lumin. 192, 203 (2017).
- [2] T. Iimori, Y. Abe, Chem. Lett. 45, 347 (2016).
- [3] 飯森俊文：「磁気光学機能材料としてのイオン液体」、ファインケミカル, 47, No. 9, 19 (シーエムシー出版)

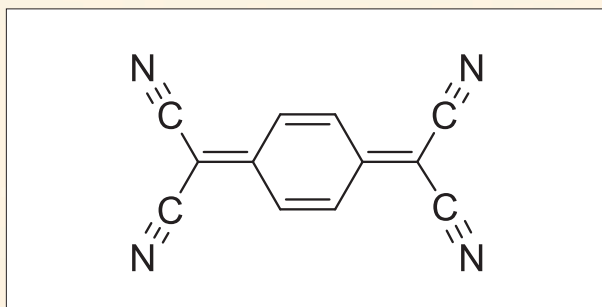


図1. テトラシアノキノジメタンの構造



図2. 研究室メンバー



## 室蘭工大 OB・OG訪問

室蘭工業大学を卒業後、様々な分野で活躍しておられる  
OB・OGを紹介します。

今回は、東芝インフラシステムズ株式会社 鉄道システム事業部  
森田 拓愛さんにお話を伺いました。



**森田 拓愛さん**  
東芝インフラシステムズ株式会社  
鉄道システム事業部 2012年4月 入社  
**プロフィール**  
旭川工業高等専門学校出身。  
2012年3月 情報電子工学系専攻  
修了

### ■学生時代のこと

一 室蘭工業大学を志望した理由、また卒業された学科（専攻）を選んだ理由を教えてください。

旭川工業高等専門学校5年生で取り組んだ卒業研究のテーマが情報工学系（最適化）だったことから、もっと深く学びたいと思い、大学への編入を決めました。情報工学系学科がある大学の中で、室蘭工業大学を志望した理由は、道内であること、海がある街であること、大都市でないことでした。

一 所属研究室・研究テーマ、またそのテーマに興味を持ったきっかけを教えてください。

システムデザイン論研究室（須藤研究室）で、「複雑ネットワーク上における行動戦略の伝播と変遷に関する研究」に取り組みました。この研究は、人と人が互いに影響を及ぼし合う社会において、人々が持つ知識や行動様式がどのように社会に広がっていくかを数学的なモデルを用いて明らかにしようというものです。システムデザイン論研究室の研究テーマ（対象）のひとつは、コミュニケーションとメディア。当時、スマートフォンやSNSが登場したばかりだったので、コミュニケーションメディアが社会にどのような影響を与えるかが大きな関心事でした。コミュニケーションメディア研究に数学的なアプローチで挑んだ理由は、もともと興味と、より普遍的な真理に近づけると思ったから。でしょうか。

一 大学時代を振り返って、特に思い出に残っていることを教えてください。

いちばん強く思い出に残っていることは、学部4年次で外国人留学生のサポート役をしたことです。海外の大学から交換留学で1年間、留学生が研究室に来ました。その留学生が講義を受けたり、ゼミに出席したり、日常生活を送ったりするうえでのサポートをしました。それまでの人生で、日本国外の人や文化にふれる機会がまったくなかったので、留学生との交流をおして得られる経験は、すべてがとても新鮮で刺激的でした。言語や文化に対する理解は深まり、外のことを知ることはもちろんのこと、もっと日本のことも知らなくてはと心を突き動かされました。その後、私自身も6か月間海外へ留学する機会を得ることができました。そのときの留学生との出会いがなければ、いまの人生はなかったと思います。（その留学生は今でも頻りに連絡をとりあうよき友です）

### ■現在の仕事のこと

一 就職先として志望された理由、担当されている仕事の内容を教えてください。

就職活動をはじめたころ、とても大きな出来事が日本で起こりました。2011年3月11日、東日本大震災です。震災をきっかけに、自分は社会に何ができるだろう、困っている人にどう役立てるだろう、という問いを強く意識するようになりました。中学校を卒業してから技術者になる道を歩んできたので、やはり技術者として、社会に貢献したいと思いました。社会に貢献するアプローチはさまざまありますが、人知れず社会を支える基盤としてあり続ける、社会インフラに、とくに社会に安心と安全、快適さをもたらす、交通インフラにかかわる仕事がしたいと思い、東芝を志望しました。入社してから現在に至るまで、鉄道の地上電力設備のエンジニアリング業務を担当しています。電車は新幹線も、地下鉄、在来線も、地上から電力の供給を受けて動いています。電車で電力を安定的に供給する地上設備は、普段人目に触れることはありませんが、安心・安全・快

適な交通を支える重要なインフラのひとつです。この電力設備のライフサイクル（設計、機器の選定・製造、建設、保守）すべてにわたって、お客様である鉄道事業者とともに携わっています。

一 仕事の面白さ、やりがいを感じることを教えてください。

ありがたいです。自分が携わった設備から電力供給を受けて、電車が走る姿とその電車を利用する人々を目の当たりにしたとき、仕事のやりがいを感じます。とくに印象に残っている仕事は、日本ではありませんが、南米ブラジルでの地下鉄建設プロジェクトです。2014年から2017年までの3年間強、サンパウロに駐在し、ブラジルの都市鉄道開発の仕事に携わっていました。サンパウロはブラジル最大の都市で、人口1,000万人を超えます。地下鉄は、市民の足として、非常に重要な役割を果たしていますが、インフラが絶対的に不足しており、慢性的な道路渋滞は深刻です。私がサンパウロ駐在期間中に携わった路線が開通した現在は、市郊外の人口密集地から都心部へ多くの人が通勤や通学に地下鉄を利用しています。

一 在学中に学んだことや身についたことで、現在の仕事に役立っている、あるいはつながっていると感じることを教えてください。

仕事の実務的な面では、論理的な思考力と、テクニカルライティング（術?）がとても役に立っています。研究室での研究活動の中で、先生の熱心な指導のもと、徹底的に鍛えられました。社会に出てからでも身につけられることだとは思いますが、なかなか一朝一夕で得られるものではありませんので、指導してくださった先生には心から感謝しています。

すこし抽象的なことでは、異文化への理解力と寛容性、環境適応力が今につながっていると思います。留学生との交流や自身の留学経験から、自分とは異なる考えや価値観と接したとき、どうやって受けとめたらいいか、新しい環境に身をおくとき、どうすれば自分を受け入れてもらえるか、ということ学びました。会社に入ったとき、海外赴任のとき、学んだことが活かされました。

一 これからの仕事の目標、夢を教えてください。

日本国内外問わず、社会を支える交通インフラの発展に挑んでいきたいです。個人的には、北海道の交通インフラに携わることができればと思っています。

### ■在学生へのメッセージなど

一 室蘭工業大学の印象・期待することを教えてください。

ほどよい規模感でアットホームな大学だと思います。周囲の自然に恵まれており（都市的な遊びの誘惑もなく）、勉学に集中するにはとても最適な環境です。研究活動はもとより、留学やサークル活動など、学生の主体性を尊重する大学側の支援体制も十分にあり、充実した大学生活を送ることができると思います。今後も、学生へのサポートが一層拡充されることを期待しています。

一 室蘭工業大学の在学生に向けて、先輩としてのメッセージ・アドバイスなどをぜひお願いいたします。

室蘭には何もない!と嘆く人もいます。ですが、室蘭では、何でもできます。なんでも真剣にやれば、たのしいはず。真剣にたのしいうことをやっている人には、自然と仲間が集まってきます。人生の中で、とても貴重な時間である学生生活です。10年後、20年後、50年後、室蘭工業大学で学んでよかった!と心の底から思えるかどうかは、在学中にどれだけ真剣にたのしんだかにかかっていると思います。勉強も研究も、サークルも、アルバイトも、友人との交流も、悔いが残らないだけ、やり切ってください。そうすると、その後の人生もたのしいはず。

# TOPICS

## 新入生オリエンテーションを実施

平成30年度新入生オリエンテーションを、4月4日(水)、5日(木)、6日(金)の3日間で実施しました。

入学宣誓式終了後の4日午後から、本学体育館において、永野副学長から「学園生活について」、保健管理センター田所准教授から「健康管理について」等学内外からの講師により大学生活全般について説明が行われました。

5日には、学内で学務課のガイダンスと、各学科教員による教育課程ガイダンスを行った後、バスで留寿都へ移動し、ホテルでの宿泊研修を行いました。

宿泊研修には新入生664名が参加し、ホテル到着後は学科ガイダンス、夕食後には教員・大学院生及び新入生同士の懇談等が行われ、親睦を深めました。

また、6日には本学に帰着後、体育館でサークル紹介が行われ、それぞれ興味のあるサークルの説明を受けました。



## 大学改革セミナー「室工大未来塾」を開催

4月19日(木)に本部棟中会議室において、第8回大学改革セミナー「室工大未来塾」を開催しました。今回は、株式会社進研アドの河野政文氏と吉良直子氏を講師に招き、「学部改組及び高大接続改革を踏まえた学生募集戦略」と題して講演があり、役員をはじめ、これからの大学運営に携わる教職員約35名が参加しました。

講演では、2018年度の入試の概況や今後の学生募集戦略について説明があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

## エアウォーター株式会社との 包括連携研究協力等に関する協定の締結

本学とエア・ウォーター株式会社は、5月21日(月)に包括連携研究協力等に関する協定を締結しました。

本協定は、北海道の基幹産業である農業・食品分野の発展に寄与する研究開発を目指し、大学内の複数の研究室が取り組む全学を挙げた研究シーズとエア・ウォーター株式会社が日々の事業展開から必要としている技術ニーズを組み合わせるという「組織と組織」の総合力を集めた包括的な産学連携であり、学術的な知見を生み出すだけでなく、研究成果をいち早く事業化に結びつけることを目指しています。

今後は、連携推進協議会を設置し、共同研究として3テーマを設定した上で、研究者の交流や派遣を行い、成果の創出につながる本格的な研究・開発に取り組む予定となっています。



### ●「包括連携研究協力等に関する協定」の概要

#### 1. 目的

「相互のシーズやニーズのマッチングを様々な学際領域で行い、北海道における農業・食品のイノベーションを創出する技術等の開発に資する複数の共同研究を展開するとともに、共同研究等を通じた人材育成の充実を図ること」

#### 2. 協力事項

- (1) 相互のニーズ及びシーズの提供
- (2) マッチングに関する各種活動
- (3) 北海道における農業・食品のイノベーションを創出する技術等の開発に資する共同研究の推進
- (4) 共同研究等を通じた人材育成
- (5) その他、両者が必要と認めた事項

### ●共同研究テーマの概要

- (1) 機能性成分定量分析法の研究開発とデータベース構築
- (2) 加工用原料野菜の生産技術の研究開発
- (3) 施設栽培でのAIによる基盤整備技術の研究開発

## 寄附講座「社会基盤管理工学講座」 開設式及び開設記念セミナーの開催

平成30年4月1日(日)に一般財団法人北海道道路管理技術センター、株式会社ドーコン、北海道道路エンジニアリング株式会社、株式会社砂子組及び株式会社構研エンジニアリングの5社による寄附講座が開設したことを記念し、5月31日(木)に寄附講座「社会基盤管理工学講座」の開設式及び開設記念セミナーを開催しました。

開設式では、一般財団法人北海道道路管理技術センター参与桜田昌之氏から設立の経緯について説明をいただいた後、岸徳光特任教授から社会基盤施設の効率的かつ戦略的維持管理に関する研究についての概要説明がありました。また、室蘭開発建設部長の平野令緒氏から祝辞をいただき、最後に空閑良壽学長から5社に対して感謝状が贈呈されました。

開設記念セミナーでは、岸徳光特任教授が「道内橋梁の維持管理に係る今後の課題」について講演し、道内の道路整備が進んだ1970~80年代に多数建設された橋が續々と耐用年数に近づいている現状が説明され、橋を長持ちさせる手段として点検業務の高精度化、効率化、省力化を進めなければならないことが強調されました。



## 明德祭を開催

明德寮実行委員会主催の第72回明德祭が、「天を衝き 地を震わせる 熱血たれ われら明德の轟歌」をテーマに掲げ、6月23日(土)から24日(日)の2日間、明德寮を中心に開催されました。

6月23日(土)には、中島町シャンシャン共和国を会場に赤フン行列が行われました。当日は快晴に恵まれ、約130名の寮生が赤フン姿で山車5基を担ぎ、寮歌などを歌いながら商店街を練り歩き、沿道の市民から声援を受けていました。

6月24日(日)は、寮内を一般開放し、YOSAKOIチームによる演舞等さまざまな催しが行われ、多くの学生・市民が訪れました。

## 第39回蘭岳コンサートを開催

7月7日(土)に大学会館多目的ホールにおいて、第39回蘭岳コンサートを開催し、教職員、学生及び市民約80名が演奏を楽しみました。

今回は、「室工大管弦楽団メンバーによる七夕コンサート」と題し、第一部はソロやアンサンブルにより「シチリアーノ」、「恋とはどんなものかしら」、「ヴァイオリン協奏曲第一番」等を演奏いただきました。第二部は管弦楽団メンバーによる吹奏楽ステージとなり「音楽祭のプレリュード」、「吹奏楽のための第一組曲」を演奏いただきました。来場者は様々な楽器の音色の違いを楽しみ、迫力あるサウンドに聞き入っていました。

今回のコンサートにおいて、東日本大震災被災者支援のための義援金をお願いした結果、皆様から寄せられた義援金は、3,701円となりました。ご協力いただきました皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、ご報告を申し上げます。



## 室蘭工業大学 教育・研究振興会のご案内

室蘭工大には、「教育・研究振興会」という組織があり、毎年、様々な学生支援活動を行っています。教育・研究振興会の活動は、教職員、学生の保護者、企業、卒業生、一般の方々からの募金により運営されており、毎年多くの方のご支援により支えられています。

現在、教育・研究振興会では、「成績優秀者への奨励金」「困窮学生のための臨時的生活支援」「社会人博士後期課程学生への奨学金」「国際交流活動支援」を行っており、より多くの学生を支援するため、今後も事業を継続して行ってまいりますので、ご支援の程よろしく申し上げます。

教育・研究振興会への募金や支援事業の報告（振興会だより）は、以下のホームページからご覧いただけます。

室蘭工業大学教育・研究振興会HP

<https://www.muroran-it.ac.jp/syomu2/kkshinkou/index.htm>



## 附属図書館のご案内

当館は、室蘭工大の学生・教職員のための図書館ですが、学外の一般の方も利用できます。

当日の利用のみを希望される場合は、身分証（免許証、学生証等（国、地方公共団体、学校法人が発行したもの））をご提示ください。また、図書館利用証を作成しますと、当館資料の貸出もできます。利用証作成の手続きについては、当館ホームページをご覧ください。

なお、試験期間につきましては、本学学生の利用を優先するため、座席のみのご利用はご遠慮いただいております。

当館の最新情報は、開館日・開館時間、利用方法、図書の検索等はウェブサイトから、新着図書の紹介や各種企画展示・イベント等はFacebookとTwitterから発信しています。

附属図書館HP <http://www.lib.muroran-it.ac.jp/>

附属図書館Facebook <http://www.facebook.com/MuroranIT.lib>

附属図書館Twitter [http://twitter.com/MuroranIT\\_lib/](http://twitter.com/MuroranIT_lib/)

附属図書館HP



附属図書館Facebook



附属図書館Twitter



## 公開講座・室工大サイエンススクールについて

室蘭工大では大学の施設を開放して、広く地域の方々を対象に、生涯学習の一環としてさまざまなテーマによる参加・体験型の公開講座や地域の小・中学生を対象に、日常の授業を離れて「科学技術」や「ものづくり」に興味や関心をもってもらうための体験型プログラムとして室工大サイエンススクールを実施しています。

実施内容や開催時期については、大学ホームページに掲載していますので、是非、一度ご覧ください。

公開講座HP

[http://www.muroran-it.ac.jp/guidance/r\\_so/extension\\_lecture.html](http://www.muroran-it.ac.jp/guidance/r_so/extension_lecture.html)

室工大サイエンススクールHP

[http://www.muroran-it.ac.jp/guidance/r\\_so/ss\\_mit.html](http://www.muroran-it.ac.jp/guidance/r_so/ss_mit.html)

公開講座HP



室工大サイエンス  
スクールHP



## 教育・研究3号館（N棟）が生まれ変わります

本学の講義棟である教育・研究3号館（N棟）の改修工事を行っています。この棟は、すべての学生が講義を受講し、掲示板で講義情報等を見るために必ず利用する講義棟です。工事は平成29年後期から開始し、平成31年9月に竣工予定です。アクティブラーニングに適した教室に改修する等、学生の皆さんがより良い環境で講義を受けられるように整備していきます。

## 「室蘭工大 未来をひらく技術と研究」

室蘭工大では、本学をさらにご理解頂くため環境やエネルギー関連の研究を紹介した、「室蘭工大 未来をひらく技術と研究」を刊行いたしました。

本書は、本学でどのような研究が為され、それが社会にどのように還元されるのか、そしてそれをいかに平易な言葉でご紹介できるかを考え、編集したものです。

また、本学の研究につきましては、室蘭工業大学研究者データベース (<http://rd-soran.muroran-it.ac.jp/search/index.html>) 及び室蘭工業大学研究シーズ集 (<http://www.muroran-it.ac.jp/crd/seeds/seeds.html>) においてもご紹介しておりますので、併せてご覧ください。

国立大学法人 室蘭工業大学 編

A5版 / 232ページ / 1,620円（本体1,500円+税）

北海道新聞社 刊

ISBN978-4-89453-745-3



平成30年12月25日発行 第58号

室蘭工業大学広報室 編集

〒050-8585 室蘭市水元町27-1

E-mail:koho@mmm.muroran-it.ac.jp

TEL.0143-46-5016

【ホームページURL】<http://www.muroran-it.ac.jp>

室蘭工業大学HP

